

2012年11月7日 公益信託ENEOS 水素基金 第7回助成金贈呈式を開催

本基金は、水素エネルギー供給に関連する独創的な基礎研究を継続的に助成することにより、水素を利用したエネルギーシステムを広く社会に普及させ、将来に亘って持続的に発展し続ける社会を創造することを目指している。年間総額 5000万円の研究助成を約30年にわたり安定的に継続し、技術のブレイク・スルーを引き起こすことを目指している。第7回目となる今年度は、50件の応募から厳選な審査により5件のテーマが選考された。

贈呈式では木村会長より、「本基金は、今回、新たに助成対象となられた先生方を含め、これまでに39名の有望な先生方に助成をしてきました。近い将来、この基金の助成対象の先生方から、きっと、水素エネルギー社会の実現に貢献するブレイクスルーが生まれると信じています。」との挨拶の後、堂免一成運営委員長（東京大学工学系研究科教授）より、助成対象者への目録が贈呈された。

また、贈呈式に先立ち開催された前年度助成対象者5名による成果報告会では、活発な質疑応答が展開された。

（研究開発企画部 R&D企画グループ 立石 大作）

2012年度 研究テーマおよび助成対象者

研究部門	研究テーマおよび助成対象者
水素製造技術	「フォトリソグラフィーを利用したパラジウム複合膜の新規作製法と水素分離透過特性の評価」 上宮 成之（岐阜大学工学部機能材料工学科 教授）
	「水素合成（NiFe）ヒドロゲナーゼの構造基盤の解明」 樋口 芳樹（兵庫県立大学大学院生命理学研究科 教授）
水素貯蔵・輸送に関する技術	「省エネルギー型水素製造システム構築に向けた高性能分子ふるい型カーボン膜モジュールの開発」 吉宗 美紀（産業技術総合研究所環境化学技術研究部門 研究員）
CO ₂ 固定化技術	「超臨界 CO ₂ 岩盤注入安定固定化技術の実験的検討」 石田 毅（京都大学工学研究科 教授）
	「二酸化炭素の高効率回収の為に相転移型ゲルナノ薄膜グラフト材料の開発」 星野 友（九州大学大学院工学研究院化学工学部門 助教）



2011年度、2012年度助成対象者およびENEOS水素基金関係者